

第1章 はじめに

「熟議 2013 in 兵庫大学」報告書の刊行にあたって

兵庫大学・兵庫大学短期大学部 学長 三浦 隆則

本学は、地域に根ざす大学としての、そして「地域の生涯学習機会の拠点たる大学」としての立ち位置から、さまざまな活動と情報発信を行ってきました。公開講座の開催、地元自治体との連携、産官学連携、高齢者大学「兵庫県いなみの学園」との連携協定、等であります。

行政レベルでは、文部科学省は、平成24年6月の「大学改革実行プラン」において、「地域再生の核となる大学づくり COC (Center of Community) 構想の推進」を打ち出しました。本学においても、東播磨地域にある唯一の大学であることの自覚・役割を認識し、真の意味で COC たるべく努力しています。また、平成26年4月には、設置を検討しておりました「兵庫大学 エクステンション・カレッジ」を開設いたします。これまでの継承発展であるとともに、新たな形での地域貢献を推進してまいります。

さて、昨年度、地域連携の一つとして、文部科学省との共催で「熟議 2012 in 兵庫大学」を開催しました。熟議について、「大学は、地域や社会の知の拠点として、住民の生涯学習や多種多様な主体の行動を支えると同時に、地域や社会の課題を共に解決し、その活性化や新たな価値の創造への積極的な貢献が求められている」と記されています。熟議は、「熟慮」して「議論」するということであり、事前にテーマについて知識を得て、考えて、当日の議論に加わることとなります。

熟議のもう1つの趣旨に「異なる立場の者が一体となって課題解決の方法等を考える場づくりとして、また、学生の学習の場としても有効である」と記されており、異なる立場の者が集い、熟議することの意義が示されています。今年度は、より多くの若い世代の参加を増やすこととし、地元の高校生の参加を要請し、大学生には、ファシリテーターとしてもワークショップのメンバーとしても参加していただくこととしました。おとな世代とのコラボレーションの中から、生徒、学生の学び、成長を期待する形にしました。

昨年度の熟議のテーマは、「地域における生涯学習社会の構築と大学・自治体の役割」であり、生涯学習社会の構築についての熟議としました。その実践を経て、熟議プロジェクトチームを再構成（昨年度のメンバーに2名追加）し、実施に向けてのスタートを切りました。今年度は、若い世代にも多く参加していただきますので、若い世代が「熟慮」して「議論」しやすいテーマを練り、「加古川地域の未来について話をしよう！」としました。

熟議の成果として、「地域や社会の課題の解決」、「その活性化や新たな価値の創造」に貢献したか否かは、本報告書からお読み取りいただくこととし、本熟議に参加していただいたみなさま、ファシリテーター

ターとしての事前研修に参加いただいた学生諸君、熟議実施までの準備に力を発揮していただいた熟議プロジェクトチームならびに関係教職員のみなさま、本報告書作成に尽力いただいた熟議プロジェクトチームのみなさまに心から感謝申し上げます。